

- ①「生きる」ことを語れ
 ...生きることは楽しい。
 ②「耐える」ことを語れ
 ...耐えることの大切さ
 ③「戻<す>」ことを語れ
 ...ギョ・アソビ・ギョの精神
 ④「励む」ことを語れ
 ...美を心得をしようなどと、
 横着はダメ。
 ⑤「**真**」ことを語れ
 ...何事も粘り強さ
 ⑥「**信**じる」ことを語れ
 ...信じてこそ、奇跡は起きる。
 ⑦「**変**える」ことを語れ
 ...その気になれば、
 人間、いつだって変わる。
 ⑧「**考**える」ことを語れ
 ...「知る」ことよりも「考える」こと
- 「**真**<く>」ことを語れ」
 (子育てのゴツ：師友塾学長・大越俊夫)

- 【授業改善】生徒指導の機能を生かす授業10箇条
- 第1 私は、授業前に教室や廊下等で子どもと触れ合う時間を確保しています。
 - 第2 私は、始業のチャイムとともに授業を始め、子どもの状況を確認しています。
 - 第3 私は、学習用具や提出物を忘れた子どもへの指示や配慮を適切にしています。
 - 第4 私は、穏やかな表情や態度などで、温かい雰囲気づくりに努めています。
 - 第5 私は、「OOさん」「△△くん」のように、きちんと名前を呼んでいます。
 - 第6 私は、興味・関心を把握して、子どもに合った活躍の場を用意しています。
 - 第7 私は、学習意欲が高まったり、継続したりするように励ましています。
 - 第8 私は、考えたり、活動したりする時間や場所を十分に保障しています。
 - 第9 私は、協力して活動するなど、他と積極的にかかわる場面を設けています。
 - 第10 私は、自由に話し合ったり、積極的に発言したりできるように配慮しています。

「木を買わず、山を買え」
 ... あなたの仕事の成果は、
 何年後まで生き続けますか？

～「頑張る」を考えてみませんか？～

～「頑張る」を考えてみませんか？～

プロの教育者であるために...

< 非売品 >

～「頑張る」を考えてみませんか？～

自分の仕事を頑張っているなんて言っちゃダメ。

仕事のプロであれ！

プロは頑張るのは当たり前。

頑張るのは特別なことじゃない。

「頑張る」という言葉が出てしまうのは、仕事しか見えていないから...。プロとして本物の仕事をするには、人としての大きさ、魅力が必要なのだ。

そのためには、生活の中に、仕事以外の人にも話れるような柱を持つことが大切。

.....
 プロというのは、寝ても覚めても仕事のことを考えている。生活すべてが仕事。そこがアマチュアとの絶対差だ。

(相田 みつを)

★プロ教師10の「心得」

1. 心身ともに、いつも健康である。
2. 「教師」を演じることができ。
 ...服装・言葉遣い・表情・姿勢・動作
 ...授業がうまい。
3. 授業がうまい。
4. 話上手である。
 (「譬え話」のネタをたくさん持っている。)
 ...教育哲学を持っている。かつ、柔軟な考え方をしている。
5. 謙虚な姿勢で学び、常に向上心を持っている。
6. 対人関係処理能力に優れている。
 (生徒との信頼、保護者の信頼、教師同士)
 ...生徒を一番に大切にしている。
7. 「時」を守り、「場」を清め、「礼」を正す。
8. 学校行事や部活動を大切にしている。

私が先生になったとき (宮沢 賢治)

自分が真理から目をそむけて、子どもたちに本当のことが語れるか。
 自分が未来から目を背けて、子どもたちに明日のことが語れるか。
 自分が理想をもたないで、子どもたちに一体どんな夢が語れるのか。
 自分に誇りを持たないで、子どもたちに胸をはれと言えるのか。
 自分がスクラムの外にいて、子どもたちに仲良くしろと言えるのか。
 ひとり手を汚さずに自分の腕を組んで、子どもたちにガンバレガンバレと言えるのか。
 自分が闇いから目をそむけて、子どもたちに勇気を出せと言えるのか。

子どもをEducationする(教え、育てる)のに、忘れてはならない大切な2つのこと

1. 「**手本**」になる。」
2. 「**愛和**」の心 (教育という営みは、「**信**れの伝染」である。)

「プロ教師になるための十六章」 (河上亮一)

- その一 「学校は戦場である。」
- その二 「教師を演ずるには衣装から」
- その三 「役者のような動作を身につけろ！」
- その四 「他人行儀な言葉づかいがいい。」
- その五 「職員室のなれ合いを避せ！」
- その六 「生徒との約束は絶対に破るな！」
- その七 「責任をもてない命令をするな！」
- その八 「生徒とはよそよそしい関係を！」
- その九 「生徒の私的領域に立ち入るな！」
- その十 「クラスの秩序は『きまり』から」
- その十一 「行事は学校の非日常化である。」
- その十二 「生徒を道徳的に斬罪するな！」
- その十三 「やっただことの理由を聞くな。」
- その十四 「生徒を説得しようとするな！」
- その十五 「処理できなければ警察へ行け！」
- その十六 「教師は体制的な存在である。」